



猛暑の中 「原爆と人間」写真展を開催

去る8月4日・5日・6日に恒例の「原爆と人間」写真展を開催しました。今年は例年になく暑い夏で冷房なしでは生活できないような毎日です。78年前のこの日、やはりこんな日だったのでしょうか。午前8時15分頃、広島市に原子爆弾が投下されました。

今年は特別企画として、8月5日に「被爆体験の語り部長尾昭さんを囲む会」を開催しました。当日は25名の参加者があり、皆さん熱心にうなずきながら聞き入りました。長尾さんは95歳のお年とは見えないうくらい背筋がぴしっと伸びてかくしゃくとしていらっしゃいました。淡々とした話し方の中にも人の心を打つものがあり、聞く者の気持ちをその世界に引き込んでいく言葉の強さがありました。

「8時15分頃、特殊爆弾が広島市に投下され広島市内は一瞬にして廃墟と化しました。私は原爆が投下された朝8時15分には勤務先の広島工業学校校舎内の窓際におりました。校舎全体が青白い光でいっぱいになり、私はこれは何かなと思いました。とその瞬間、木造校舎が倒壊、押し潰されました。ピカッと光ってドーンと校舎が押し潰されたんです。校舎が倒壊して校舎の中が真っ暗闇になりました。上空からの爆風で校舎が押し潰されたのです。」(体験談より)

この後長尾さんは校舎を抜け出し、命にかかわる大怪我をしましたが運良く助かりました。

「戦争は絶対にしてはいけません！何よりも平和が一番です。大切な命はお互いに一つなんです。予備の命はありません。平和を守るためには大勢の力が必要です。大勢の国民が声をあげるのが一番大事だと思います。」(長尾さん体験談より)

長尾さん、有意義なお話をありがとうございました。これからもお元気で語り部を続けて下さい。

